

盛林寺

盛林寺は、1577 年に上宮津城の城主の檀那寺として建立されました。その後、上宮津城主は 1580 年にこの地域を治める中で、細川家と友好的な関係を築きました。これにより盛林寺は、日本で初めて天下統一した武将の織田信長（1534 年～1582 年）を死に追いやったことで知られる明智光秀（1528 年～1582 年）を供養するという特異の立場に置かれる寺となったのです。細川家は信長に忠誠を誓っていましたが、光秀の裏切りの前に、彼の娘が細川家と結婚していたのです。そして光秀が復讐によって暗殺された後、光秀の首は宮津に運ばれ、盛林寺の墓地に埋葬されたと考えられています。

盛林寺は建立以来 2 回場所を変え、1685 年に現在の丘の中腹に建てられました。軽度の修理を除いて、盛林寺の寺の構造はこれまでにほとんど変化していません。本堂には仏陀像、僧侶像、その他、盛林寺の宝物があります。盛林寺では釈迦牟尼仏の死を悼むために、室町時代（1336 年～1573 年）に描かれた仏陀の絹の絵が毎年 2 月に展示されます。石階段を上ると、鐘楼でもある盛林寺の 2 階建ての門があります。盛林寺の庭園は非常に静かで、珍しい形の岩から湧き出る天然の泉、鯉が泳ぐ池、穏やかな緑の植物が特徴です。